

遠赤外線で がん治療

遠赤外線が前立腺がん細胞の増殖を抑制する効果があることを、兵庫医科大学の島博基教授（泌尿器科学）が突き止めた。同大学が27日、発表した。遠赤外線を発生する特殊加工ゴムをがん細胞の近くに置くと、がん細胞の自

細胞増殖を抑制

兵庫医科大発表

を移植したマウスをカゴに入れ、周りを大阪市の化学メーカーが開発した、微弱な遠赤外線を放射する金属などを混ぜた特殊加工ゴムで囲って、マウスのがん細胞増殖の推移を観察した。

その結果、遠赤線を当てられたマウスの体温が0.36度上がり、マウスに移植されたがん細胞内の遺伝子があるアポトーシス回路が活性化。約70日後に、がん細胞の増殖が半分以下に抑制された。

これに加え、がん増殖抑制機能があるとして米国で抗がん剤として使われている腸管内物質「酪酸ナトリウム」を3種類の前立腺がん細胞に投与したところ、いずれも死滅したという。

島教授は「原理的にはすべてのがんに効果があるはず。臨床応用を進めて、治療法を確立したい」と話している。